

学校法人 米田学園 米田柔整専門学校

学校関係者評価報告書

(令和 6 年度)

<<評価項目一覧>>

- 1 教育理念・目標
- 2 学校運営
- 3 教育活動
- 4 学習成果
- 5 学生支援
- 6 教育環境
- 7 学生の受入れ募集
- 8 財務
- 9 法令などの遵守
- 10 社会貢献・地域貢献

令和6年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人 米田学園 米田柔整専門学校 学校関係者評価委員会は「令和6年度 自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告する。

1. 学校関係者評価委員

業界関係：森川伸治

卒業生：加納功詞

太田佳孝

有識者：森 虹輝

2. 令和6年度 自己評価に対する学校関係者評価

評価項目	評 価	評価に対する今後の学校の取組み
教育理念・目標	第3者評価を見据えて、今一度、建学の精神、教育理念、教育目的、教育目標を見直す必要がある。佛手仏心を軸として各種目標などを策定していった欲しい。	理事長、学長の意見をもとに改めて建学の精神、教育理念、教育目的、教育目標を策定する。
学校運営	PDCA が恒常的に回っているため、引き続き改善を繰り返し、学校の質を高めてほしい。組織図などがわかりやすい形で整備されていないので、今一度整備するとよい。	PDCA に関しては引き続き進めていく。一部、評価の基準設定が難しいが工夫してできるだけ、数値で表せるようにしていく。組織図は早急に整備して、職員に提示できるよう準備していく。
教育活動	二期制に移行して初年度であったが、大きな混乱なく、単位認定が行えていた。留年者の割合も以前より減少してきているため、国家試験合格率高い水準で維持できれば教育活動の質向上が図られていると評価できる。新しいカリキュラムは非常勤講師と常勤講師の割合や、国家試験対策の充実、及び3年間通じての実技教育の展開など工夫して、策定することを期待する。	二期制の初年度であったが、再試験前の学生への対応など、低学力者対策に今後も力をいれて実施していく。退学者が多く出るとは学校において大きな損失となるため、今後もその対策に力を入れて務めていく。カリキュラムに関しては、様々な観点から見直しを図り、全体最適となるように改定を進めていく。
学習成果	新卒の国家試験合格率は91.2%であり、全国平均の75.9%を大きく上回っており、学習成果としては良好な結果である。ただし、既卒生の合格率は16.7%と低い水準であったため、既卒生の対応にも力を入れてもらいたい。退学率に関しては目標の5%以下の水準を達成できたので、その要因を分析して次年度以降も退学率低減を図る取り組みを継続してもらいたい。	国家試験に関しては合格率100%を目標として、今後も教員と学生の質向上に努めていく。既卒生に関しては聴講生制度を活用するなどして合格率の向上に努めていきたい。次年度は退学率の目標を5%から3%に引き下げ、退学率を低減する取り組みを戦略的に行っていくように体制を整えていく。
学生支援	近年は特にメンタルの不調を訴える若者が多い傾向があるため、教職員以外の相談窓口が設置されたことは評価できる取り組みである。学生の経済的側面に対する支援として、教育訓練給付金制度の活用は社会人にとって大きな制度であるため、制度の導入条件である国家試験受験率を80%以上にできるように退学率低減に努めていただきたい。JATI の受験料は33,000円と学生にとっては高額であるため、学校として費用補助に対して積極的に検討していくべきである。	現在は心理学を教授いただいている先生に相談を依頼しているが、今後は第三者機関も検討して、さらに学生相談に関する充実を図っていきたい。教育訓練給付金制度は国家試験受験率が80%を超える必要があるため、先述の退学率低下の取り組みを実施して体制を整備していきたい。JATI の受験料に関しては経営者とも協議して、積極的に費用補助の導入を検討していきたい。

教育環境	多くの卒業生と連携して有機的な臨床実習が実施できていると評価できる。手台や足台など以前から長期にわたって使用している医療設備などは耐用年数に応じて設備の更新が必要である。	実習施設は質のよいところを選定し、充実した臨床実習が行えるようにさらに体制を整えていく。設備、備品に関しては適宜、更新して清潔な状態を保てるように努めていく。
学生の受入れ募集	今年度は 79 名入学と定員 80 名に対してほぼ充足できたことは評価できる。定員充足を継続することが今後も必須課題であるため優先順位を最高位として募集活動を進めていって欲しい。近年は北陸地方や長野県など遠方からの募集も多いため、遠方へのアプローチを充実させることも方策の一つに取り入れてはどうか。	定員をほぼ充足することができたため、これを継続していけるようにさらに工夫を重ねていきたい。広報活動では SNS を積極的に活用し、遠方からの参加者が増えてきている現状に対応するべく、北陸地方及び長野県の高校生にアプローチする効果的な手法を検討していきたい。
財務	2024 年度の 3 月決算では経常収支差額 +2037 万、教育活動外収支差額 +4491 万、教育活動収支差額 △2037 万であった。今後、継続的な黒字体質を維持するために、教育活動収支差額を黒字化することを目標に学校を運営していったほしい。	教育活動収支差額を黒字化するために、退学者の減少、光熱費などの節約、80 名の入学者の確保を 3 本の柱として事業を展開していきたい。
法令などの遵守	法令順守は適切に実施されていると評価する。昨今、学校においても様々なハラスメントのリスクがあるため、学生指導においてもより一層注意してもらいたい。	自己評価、学校関係者評価を適切に行い、さらには第 3 者評価を受審することを目指して、学校運営に関わるコンプライアンスを整備していく。学生指導では今後ハラスメント研修を企画するなどして、未然に防止できるよう努めていく。
社会貢献	米田道場を子どもの健全育成を目的とした柔道教室の場として提供していることは評価に値する。また転倒予防教室は地域の高齢者にとって貴重な講演の場であると考えられるため、継続して実施していったほしい。	今後も継続して米田柔道教室及び、転倒予防教室を開催していきたい。また、他にも各種スポーツ大会への救護スタッフとしての参加など新たな展開も積極的に開拓していきたい。

【総評】

一時、低迷していた学生募集活動が上昇機運となり、定員をほぼ満たせたことは今後の学校運営において非常に重要な意味をもつ。次年度も引き続き定員が満たせるように職員が一枚岩となって、募集活動を活発に行っていただきたい。また国家試験においても全国平均を大きく上回る合格率であったため、十分に学習成果としても効果があったと評価できる。合格率だけでなく、卒業時の学生のアウトカムを意識した実践的な臨床能力を獲得させることも米田柔整の質の向上につながるため、意識して取り組んでももらいたい。社会の構造自体も様々なコンプライアンスに敏感になり、教育活動も日々変化を求められる時代となっている。しかし、米田柔整の「佛手仏心」の哲学は不変的なものであるため、教育理念を軸に今後も地域社会に貢献できる柔道整復師の育成に尽力していただきたい。